

床材の違いが電気掃除機作業に及ぼす影響について

— 電気掃除機の研究(その6) —

大阪市大 ○申京珠・上林博雄

目的：近年国民の生活様式，生活環境の変貌が顕著であり，国民の生活に対する意識も変化してきました。それにしたがって従来の畳の生活からカーペットが多りにとり入れられるようになりました。そこで家事労働の見地から床の材質の違いによる掃除のしやすさ及びその床材に適切な電気掃除機の機種を知るために実験を行ないました。

方法：まず床の材質の違いにより6種の床材をもちりました——カーペット4種(ループパイルとカットパイル)，Pタイル，畳。掃除機は異なる機種のもの3基にし，被験者は成人女子2名及び男子2名(1名は比較にのみ使用)を使用しました。測定はエネルギー代謝法をもちましたがこの装置は今までの研究で使用したのと同じものです。

結果：1)どの掃除機もPタイル，畳，カーペットの順に1分当り，体重当りの労働量が多くなります。

2) マットライト型では4種のカーペットの労働量の差が見られませんでした。がキヌニスターでは床材C3の労働量が特に少ないでした。

3) ループパイルとカットパイルではループパイルがややエネルギー代謝量が少なく，カットパイルではキヌニスターを使用したときのみ毛並が長い方が短かいものよりエネルギー消費量が少なくなりました。

4) Pタイルではミヨルダ型のパラツキが最も少なく $0.013 \sim 0.014 \text{ Kcal/kg}\cdot\text{M}$ で畳ではキヌニスターのパラツキが最も少なく $0.021 \sim 0.024 \text{ Kcal/kg}\cdot\text{M}$ である。つまりPタイルより畳では67%エネルギー代謝量が増加します。